
美姫に誓いの口づけを

紫月 紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美姫に誓いの口づけを

【Nコード】

N5109BA

【作者名】

紫月 紅

【あらすじ】

容姿は月のように冷ややかに美しく、声は聞く者を惑わすように妖艶――…

しかし、彼の時は止まっている。
愛する者の死で。

……彼は知らない。

この先に出会う奇跡に。

そして、歩みを止めた時を再び共に刻む少女のことを――…

悲しみの吸血鬼と容姿は良いが生意気な少女の不器用な愛物語

prologue

……もう何年経ったことだろう。

……―嫌、何百年か。

私を恐れ、憐れみ、それでも慈しみ、理解し、愛してくれた彼女を失って。

今もこの手に残る

彼女の最期の温もりが

瞳に焼き付く美しい姿が

耳に残る儚い声が

絶えることなく続く時間の中で、私に絶望を与える。

……彼女は私にとって最愛だった。

彼女がいれば幸せだった。

彼女を誰より愛していた。

それなのに……彼女は最期に私に言った。

……―時が来たら、あなたは誰かを愛するでしょう――……

……それは、この先解かれることのない呪文のようだった。

……―それでもいいから……それまでは私を……忘れないで――……

アスピア

ここは大国アスピア。

大きな城下町は活気があり、人々は陽気そのもの。

沢山の物資が溢れ、貧富の差など無いに等しい。

それもこれも、この国を治める王の手腕の賜物と言えよう。最も、この平穏そのものの国にも悪さを働こうとする不届き者はいるが。

少女、アリアもそのアスピアで暮らしている。

漆黒の艶やかな長い髪は結われることもなくサラサラと風に揺れ、それに相反する肌の白さは雪のよう。

大きな二つの瞳は穢れを知らず、ハチミツのような琥珀色、その間を整った鼻筋が通る。

唇はほんのり色付き上品で、頬はバラのように淡いピンク。

背はやや小さめで体は折れてしまいそうな程華奢。

まさにドール。

一度歩けば、皆が振り帰り笑みを零す。

……—はずだった。

「こらっ！待ちなさいよっ！大人しく観念なさいっ！」

ドールと見間違う程の容姿にそぐわない言動に周囲は慣れていた。

「…観念なさい、この悪党。」

自分よりも背の高い男を後ろから飛び着くように蹴り飛ばし、足下に敷く。

「わっわかった！俺が悪かった！出来心なんだっ…許してくれえっ。」

顔を引きつらせ男は少女に助けを請う。

「あんたの言葉は信用ならない！」

男を見下ろして少女は睨む。

「だいたいあんた…」

「アリア、もうよしなさい。」

鶴の一声。

敷かれる男と見下ろす少女が、たちまち 悪びれた様子で急ぎ並ぶ。

周囲はクスクスと笑いながら、ある者はまたかと言い、ある者は今日は早い終わりだなと言ってまた歩み続ける。

周囲の動きに残された二人は互いに罰惡そうに声の主を見やる。

アスピアが他国に誇る軍部で最強にして最高の司令官と称される男。

ルダウス・ド・シュトレウス

……少女、アリアの父であった。

2

アリア・ド・シュトレウス

麗しい容姿ながら跳ねっ返りのじゃじゃ馬娘は齡16になった。

アスピアでは成人年齢だ。

尊敬して止まない父は厳しい軍部では眠れる鬼才とも呼ばれているらしいが、娘に弱く常に穏やかでとても優しい。しかし決して甘やかすだけを良しとはせず、時には厳しく接してくれる。母クレアは他国の貴族の娘であり、若くして父に嫁いだ。美しさは年を重ねた今でも垣間見え、おっとりとした印象を与え、たった一人の娘にとっても優しい。

…この二人の子供にしてはアリアは少々勇ましすぎる。

「ごめんなさい、お父様。」

「どうしたものか…元気なのは良いが、お前も立派なレディなのだよアリア。お母さんに心配をかけないでやっておくれ。」

優しげな眼差しは細まり、愛娘を見やる。

「……はい。」

あの勇ましさはどこへやら、すっかりしおらしくなった。

「それで、リデイス。君が悪党と呼ばれた理由はなんだね？」

横に立つ少女よりも三つばかり年上の男を見やる。

「……申し訳ございません、ルダウス様。彼女に借して頂いた本を返そうと思い、彼女の部屋を訪ねたのですが……」

「嘘おっしゃい！リデイス！私の着替えを覗いたわっ！！」

「それは誤解と言うものだよアリア。僕がそんなことするわけないじゃないか。」

二人を見やり、ルダウスはため息を吐いた。

「君たちは何故いつもそうなんだ。共に育ってきたはずなのに。」

ルダウスは天を仰いだ。

アリアはリデイスと幼なじみとしてほとんど一緒に育てられた。

リデイスの父も国王に仕える身分のため、親同士も仲が良かったからだ。

「二人とも、もう大人なんだから恥を知りなさい。特にアリアはレディたるものの自覚がなさすぎる！あんなに足を広げて男を蹴り飛ばすなどもっての他だ。リデイスもからかうのはよしなさい。……出来心とは言え若い娘の部屋に無闇に入っではいけないよ。紳士たるものが礼儀だ。」

「「……はい。」」

納得いかないような顔だが、まあ大目に見よう。

「そうだ、アリア。今日は出掛ける日じゃなかったか？…私の知る限りではもうすぐ夕刻だが。」

「いけないっ！早く行かなくちゃ！」

アリアは今日という日を心待ちにしていた。

…―成人の儀―…

少女から女性への扱いに変わる儀であり、また婚姻が許される儀でもある。

アスピアでは成人の儀の日に城に招かれ、男女が共に踊る。

そして、それは出会いの場であり伴侶探しの場とも言えよう。

…少女たちの間では、その記念すべき日に運命的な出逢いを果たした二人は永久に結ばれると噂され、まさに憧れ。

アリアもその中の一人であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5109ba/>

美姫に誓いの口づけを

2012年1月14日23時47分発行